

四季の鳥

私たちの近くに息づく野生

[文・写真] 中田一真

オオヨシキリ

—河川敷の賑やかな歌い手

オオヨシキリ スズメ目ウグイス科
全長18cm

[撮影地] 兵庫県

ムツとした空気がまとわりつく真夏の河川敷に立つと、葦原や^{あしはら} 灌木の^{かんぼく} あちこちから、賑やかな声が聞こえてくる。「ギョツ、ギョツシツ、ギョギョシツ、ギョギョシツ」。オオヨシキリだ。葦原に巣を構え、子育てをする夏鳥。雄はライバルから縄張りを守るため、裂けんばかりに^{くちばし} 嘴を開いて、懸命に歌い続ける。口の中は真っ赤で、知らない人が見たら、歌いすぎで血が出たのではないかと心配になるほど。

汗を拭きながらオオヨシキリを観察していると、川にはほかにもいろいろな動物がいることに気付く。飛び交うツバメ、魚を狙うサギ類、青い軌跡を残して飛ぶカワセミ。キジが唐突に飛び立つこともある。ある日の夕方には、草むらから出てきたタヌキと目が合った。皆、この河川敷の仲間たちだ。

「ギョツ、ギョツシツ、ギョギョシツ、ギョギョシツ」。それにしても、何というしゃがれ声だろう。聞いているだけで暑苦しい。でも、この声は、真夏の水辺に不思議と似合っている。

なかた・かずま

1966年生まれ。会社員、野鳥写真家。
身近な鳥たちの四季折々の姿を20年撮影し続けている。

【中田一真のホームページ】

<http://www.asahi-net.or.jp/~jx7k-nkt/>